

【馬宮東小 郷土かるた】

- ★郷土に誇りと愛着をもち、故郷を大切にすることを願っています。
- ★子どもだけで、「あらかわ」の土手をこえてはいけません。「かわ」や「すいろ」のちかく、「いけ」のちかくなどに、ちかづいてはいけません！！【みず】は、あぶないです！
- 【人のあまりいない さみしい ばしょ】も、子どもだけで行ってはいけません。
- 必ず 大人の人と いっしょに 行きましょう。

【あ】あすま がっこう (遊馬学校) 学制発布の 次の年

- 遊馬学校…明治5年8月に学制が發布され、身分や男女に関係なく、学校で学べるようになりまし。翌年、明治6年6月、西遊馬・二ツ宮・土屋の3つの村が、高城寺を借りて、遊馬学校を開校。教師1人、男子44人、女子2人でスタートしました。

【い】いえやす(家康)が お茶を一服 茶堂にて

- 茶堂…徳川家康が川越から岩槻方面に鷹狩りに出かけた際、疲れて小休止したところ、村人が沏茶を振る舞い、喜んだ家康が「茶堂(ちゃどう)」と名付けました。また、この茶堂では、江戸時代おわりころの嘉永～安政の頃、寺子屋が開かれていました。その頃、川越を通しての商品がたくさん行きかい、「読み書きそろばん」が必要とされていました。



【う】うみがきた(海が来た) 五味貝戸貝塚 縄文時代

★栄小学校の西門のところにあります。

- 五味貝戸貝塚…およそ6500年前の貝塚です。縄文時代に地球が暖かくなり、氷河がとけて、縄文海進が始まり、陸地の奥深く海水が進入してきていました。この貝塚では、沼や川で採れるヤマトシジミや、海で採れるマガキ・ハマグリなどの貝殻が見られます。貴重な遺跡であることから、埼玉県重要遺跡に選ばれています。



【え】えいえいおう(エイエイオー) 二ツ宮の 子ども相撲

- 二ツ宮子ども奉納相撲…9月に二ツ宮氷川神社・八幡神社で子ども奉納相撲大会が開かれます。二ツ宮では、明治・大正・昭和の戦前まで盛んに行われ、明治33年の番付表と思われる奉納額が、今でも八幡神社に飾られています。第二次大戦のため一時途絶えましたが、昭和32年頃、復活し、現在に至っています。

二ツ宮の地名の由来は、氷川神社・八幡神社の2つの神社があることから、その名が付きまし。この2つの神社と馬宮東小の近くの西遊馬氷川神社、3つの神社とも、参道が西にのびて、荒川の方を向いているのは、むかし、荒川の氾濫をはずめようと願ったからなのではないでしょうか…。

【お】 おおみやから(大宮から) チンチン電車 川越に

●チンチン電車…明治36年に川越に火力発電所が設置され、明治39年に川越～大宮間にチンチン電車が開通しました。五味貝戸・西遊馬・高木に乗り降りの停車場がありました。西遊馬の停車場は、県道2号線と57号線(さいたま鴻巣線)の交差する「指扇駅入口」の交差点にありました。

【か】 かずのみや(和宮) 嫁入りのため 砂利をしく

●和宮の徳川嫁入り…江戸末期、外国から圧力をかけられ、国が混乱。幕府が朝廷の力を借りてこれを治めようとした「公武合体政策」のため、和宮は16才の若さで徳川14代將軍、家茂と結婚することになりました。京から江戸へ移動の際、はじめ東海道を通る予定が、反対派が和宮をうばい返すといううわさがあり、中山道に変更。その際、馬宮村にある砂利を中山道に敷き詰めました。また、馬宮村の人々は、桶川宿～板橋宿まで移動のお手伝いをしました。

【き】 きりのはな(桐の花) 五七に輝く 馬東の校章

●馬宮東小学校の校章…馬宮東小学校の校章は、「五七の桐」で、学校ができたころ、高城寺にあったことに関して、高城寺の紋と同じです。また、「五七の桐」は日本政府の紋と同じです。首相会見などで、演説台の前面に、この桐の紋章が付けられています。「菊紋」は天皇家の正紋で、「五七の桐」は、菊紋に次いで格が高いとされています。



馬宮東小校長

【く】 くねるあらかわ(くねる荒川) 斎藤祐美が まっすぐに

★マップの☐のところには、斎藤祐美の大きな石碑があります。

●斎藤祐美…斎藤祐美さんは、興文学校で学んだわたしたちの大先輩で、興文学校を卒業したあと、野口英世も学んだ済生学舎(現在の日本医科大学)で医者を目指していました。しかし、故郷馬宮が度重なる洪水に苦しめられていたことから、政治家になって人々を救うことを決心し、板垣退助の自由民権運動に参加し、やがて、政治家となり、明治政府に【荒川を「太く」「まっすぐ」にする】工事の「願い事」を強力に働きかけ、実行に移すことに成功したのです。



(馬宮東小学校 所蔵)

【け】 げーとでまもる(ゲートで守る) 最新技術の 治水橋

●治水橋…令和元年10月の台風19号の際、治水橋付近ではあと50センチで荒川の水が堤防を越水するところでした。そこで、堤防を盛土して高くし、洪水時には、ゲートを閉めて、洪水をせき止めて、住宅側にあふれないようにします。水害時は、馬宮東小学校や大宮武蔵野高校に避難してはいけません。馬宮中学校や土屋中学校の3階以上に避難するようにします。



(工事現場の看板から)

【こ】こそだてじぞう(子育て地蔵) 室町からの たからもの
★馬宮中から二ツ宮の神社を過ぎて、バス通りを渡った畑の中にあります。

●子育て地蔵…むかし、ここに「西善坊」というお坊様がいらっ
しゃって、子どもたちを集めて、勉強を教えていたそうです。
ここには、子どもたちが幸せに育つように願って、「子育て
地蔵」がまつられています。お地蔵様のうしろに、緑色の
板状の岩が立っています。その表面を見ると、かわいらし
いお地蔵様の姿が彫られているのがわかります。この岩のう
らには、「応永2年」と彫られています。室町時代のものです。



むろまちじだい
室町時代か
らずっとあ
るなんて、
たからもの
宝物だね。

【さ】さんきんこうたい(参勤交代) 馬を貸し出す 遊馬村

●上尾宿～浦和宿の用馬を提供…遊馬村の由来は、鎌倉時代、官牧(国の牧場)があり、毎年
50頭の馬をみつぎものとして献上したという説がありますが、定かではありません。ただし、
参勤交代の際、上尾宿～浦和宿の間の用馬を提供したのは確かです。

【し】しちまいいし(七枚石) 与兵衛が7つの 石橋に

★本村自治会館の庭に、「与兵衛の七枚石」と呼ばれたその石が、
残っています。

●与兵衛の七枚石…馬宮の地域には、いくつかの伝説が残されて
います。「馬宮のあゆみ～荒川の流れとともに～」という本
が、学校の図書室や馬宮コミュニティセンターの図書館にあ
り、その本に紹介されています。与兵衛さんは、昔、たくさ
んの強い馬を育て、その馬がいくさで大活躍をして、評判と
なり大金持ちになったそうです。ある時、村の土橋が朽ち落
ちて困っていた時、与兵衛さんが、村人がよく通る7つの橋
を石橋に架け替えてくれ、村人からとても感謝されました。



ここのお庭に、七枚石の中
の1つが残されているよ。

【す】すいじんぐう(水神宮) 大政奉還 同じ年

★本村自治会館から西へ進み、土手の中腹にあります。土手の
てっぺんまで登りません。手前がわの中腹です。

●水神宮…県立大宮武蔵野高校の南側付近の荒川土手の東側
中腹に、水神宮の石碑があります。石碑に刻まれた年号を見
ると、慶應3年と彫られています。慶應3年は、江戸幕府15
代将軍徳川慶喜が朝廷に政権を返上した年です。これによ
り鎌倉幕府が開かれてから700年続いた武士による政治は
終わりました。その年に、この水神宮はここに建てられまし
た。水害から守られることを祈願して建てた村人の、水と闘
ってきた気持ちが伝わってきます。



「大政奉還」の年から、ずっ
とここにあるなんて歴史を
感じるね。

【せ】せわりてい(背割堤) 入間川・荒川 仲良しに

★川は、ぜったいに子どもだけで出かけてはいけません!!!
ぜったいに近づいてはいけません!



左側から入間川、
右側から荒川が、ゆるやかに
合流します。

●背割堤…かつて、荒川は、入間川とほぼ直角に交わって合流して
いました。そのため、しばしばこの合流地点で水害が生じて
いました。馬宮コミュニティセンターの図書館には、「地図で見るさいたま市の変遷」という本があり、古くは明治18年の川の流れる様子が分かります。ぜひ、見てみましょう!!その後、背割堤が作られ、2つの川を緩やかに合流させることで、水害を防ぐ役割をはたしています。

【そ】そのむかし(その昔) 荒川の姿 びん沼川

★川は、ぜったいに子どもだけで出かけてはいけません!!!
ぜったいに近づいてはいけません!

●びん沼川…馬宮コミュニティセンターの図書館には、「地図で見るさいたま市の変遷」という本があり、明治18年の様子を見ると、荒川は、遊馬村付近をまっすぐに流れてはいなく、東へ西へ曲がりくねって蛇行しているのが分かります。今のびん沼川は、昔の荒川の流れていたあとなのです。大先輩の斎藤祐美さんが荒川を太くまっすぐに流れるようにしてくれました。

【た】たぬき・キジ 馬宮大好き 大自然

●たぬき・キジ…馬宮は、自然がたくさん残されていて、様々な野生動物が暮らしています。総合的な学習の時間では、地域の埼玉県南部漁業協同組合、馬宮環境保全会の方々のご協力、馬宮の地域の生き物調査を行っています。これからも、地域の自然を大切にして、未来に残していきたいものです。

【ち】ちからいし(力石) 江戸から明治に 力くらべ

●西遊馬氷川神社(力石)…徳川家康の命令により、荒川が西に付け替えられ(荒川西遷)、利根川が東に付け替えられ(利根川東遷)ると、江戸は水害から守られ、ここ馬宮は新田開発が盛んに行われるようになり、穀倉地帯となりました。そして、収穫の時期を迎えると、若者が中心となり、お米の収穫を祝い、神社で「力比べ」を行うようになりました。米一俵は60キログラムあり、力比べには、110~180キログラムの力石が使われたようです。力比べは明治時代まで続き、今では、西遊馬氷川神社に、その力石が残されています。



ちからも
力持ち、すごいね!!!

【つ】つちやから(土屋から) 弥生の宝 ガラス玉

★馬宮コミュニティセンター前の薬局の地下から出てきました。

●ガラス玉…土屋下12-2の「土屋遺跡」から、「弥生時代のガラス玉」が発掘されました。数は2個。重さ0.4g、直径8.5mmの物と、重さ0.6g、直径9mmの物で、色はどちら

もコバルトブルーです。弥生時代はまだガラスの製造技術が日本にはなかったので、当時の中国の漢から伝わったものと考えられています。このガラス玉と一緒に、鉄製のカマも発掘されていて、「西区文化財ガイドブック」という本に写真が載っています。実物は、「土器の館（さいたま市大宮区高鼻町）」に保管されています。

【て】 てっぽうでんらい(鉄砲伝来) 同じ年だよ 高城寺

●高城寺…高城寺は、日本の種子島に、ポルトガルから鉄砲が伝来した年（1543年）に創建されました。この年、徳川家康は1歳、豊臣秀吉は7歳、織田信長は9歳でした。
(参考) 1543年鉄砲伝来の覚え方—15(以後)43(予算)が無くなる「鉄砲伝来」

【と】 とうざいに(東西に) 遊馬があるから 西遊馬

●西遊馬…江戸時代5代将軍徳川綱吉のころ、「足立郡遊馬村」という地名の記録が2か所あります。現在の埼玉県草加市のところにも、遊馬村があったのです。そして、明治12年になって、西遊馬と東遊馬に分けられました。草加の東遊馬は、現在、「遊馬町」となっています。
(参考) 綱吉—「生類憐みの令(しょうるいあわれみのれい)」を発令したことで有名。犬を特に大切にすための法令というイメージが定着していますが、実は、保護の対象は犬だけではなく、馬や人間など、あらゆる命を大切にす掟でした。

【な】 なかまだよ(仲間だよ) 興文学校 馬宮西

●興文学校…興文学校は、明治8年に開校し、明治19年に遊馬学校と一緒にになりました。そして再び、明治25年にそれぞれが分かれ、遊馬学校が第一馬宮尋常小学校(現馬宮東小学校)、元興文学校が第二馬宮尋常小学校(現馬宮西小学校)となりました。また、現在の栄小学校は、昭和48年に、馬宮東小学校から分かれて誕生しました。馬宮東小学校と馬宮西小学校、栄小学校は仲よし兄弟姉妹です。

【に】 にしあすま(西遊馬) ニツ宮と合わさり 馬宮村

●馬宮村の誕生…明治22年に、西遊馬の「馬」とニツ宮の「宮」を1文字ずつ取って、馬宮村という村が名付けられました。現在は「馬宮地区」という言葉はありますが、馬宮という住所は存在しません。
(参考) ニツ宮—氷川神社と八幡神社の2社が並んで境内に鎮座していることから名付けられた。

【ぬ】 ぬきんでた(抜きん出た) 上江橋の長さ 日本一

★川は、ぜったいに子どもだけで出かけてはいけません！！
ぜったいに近づいてはいけません！

●上江橋…長さが1609.9mあり、日本で長さ2番目の「東海道の新富士川橋(1523.2m)」より、87mも長く、一般国道の河川にかかる橋としては、日本一の長さです。かつて、テレビ人気番組であった「月光仮面」のロケも上江橋で行われました。
(参考) 上江橋由来の碑—荒川右岸の川越市古谷上に所在する古谷小学校の正門右側30mほどの道端にあり、古谷上はかつて「上郷」と呼ばれ、古川(昔の荒川本流)によって分断されていたため、明治27年に橋がかけられ、その橋の名前を「上郷」から「上江橋」と名付けられたことが分かります。

【ね】ねがいこめ(願い込め) 馬頭観音 手を合わせる

●馬頭観音…馬頭観音は、「馬の守り神」です。昔は、馬と一緒に旅をしていた際、街道で馬が倒れて亡くなってしまうと、その場所に馬頭観音をまつり、馬を供養したそうです。馬宮東小学校の西門を出たところにある石碑には、馬頭観音と彫られていて、ここは古く昔からの街道であったことが分かります。



【の】のんびりと 馬東抜けて 川越道

●川越道…馬宮公民館前と西遊馬氷川神社の前に立てられている看板を見ると、大宮と川越を結ぶ「川越道」と呼ばれた昔の道のことが分かります。ピンクコースのトヨタカローラ店から赤コースPTA旗振り当番の四つ角を通り、馬宮保育園のところを北上し、西遊馬氷川神社・JAの角を西へ曲り、馬宮東西門の馬頭観音から土手に沿って水神宮あたりで土手を越えて伯楽の碑を通り抜け、千手堂の渡しで荒川を渡って、川越に向かう道が昔の大宮～川越を結ぶ道の1つでした。

【は】はくらくのひ(伯楽の碑) ペリー来航 同じ年

★人があまりいない、さみしい場所には、子どもだけで行ってはいけません!!!

★必ず、大人といっしょに行きます。埼玉栄グラウンドより西側です。川越線を右手に見ながら、線路沿いにゴルフ場に向かって進むと、急にゴルフ場が広がったところ・左手にあります。

●伯楽の碑…伯楽(はくらく)とは、「馬の病気を治す お医者さま」のことです。この石碑は、佐藤栄学園総合グラウンドに西側、川越線より南のゴルフ場の中にあります。荒川第二調整池の工事により失われなにか心配されます。昔、ここに、馬の病気を治す とても有名なお医者さまがいて、馬をみてもらおうと、長い行列ができていたそうです。馬を飼っていた人々から、たいへん感謝されて、この碑が建てられました。年号は嘉永6年と彫られており、黒船に乗って、ペリーという人がアメリカから日本にやってきた年と同じです。



黒船来航の時から、ここにありました

【ひ】ひるまのわたし(昼間の渡し) 徳川家康 名付けたよ

★川は、ぜったいに子どもだけで出かけてはいけません!!!

ぜったいに近づいてはいけません!

●昼間の渡し…徳川家康が、川越を出発して岩槻まで行く途中、現在の飯田新田付近のびん沼川の右岸で、日がとつぷりと暮れて、真っ暗な夜になってしまいました。先を急いでいた家康のために、渡し舟の主がタイマツに火を灯し、真昼のように、川を明るく照らしたことで、家康は船で渡ることができました。そこで、その行いに喜んだ家康は、「昼間」という苗字を与え、杖で指し示したおよそ6千坪の土地を与えるとともに、渡し舟を「昼間の渡し」と名付けました。



困った家康を馬宮の人が助けたんだね!

【ふ】 ふたつみや(ニツ宮) 板碑が語る 強い武士

●板碑(板石塔婆)…ニツ宮の阿弥陀堂の墓地の一番奥に、東側を向いたお堂があり、その中に鎌倉時代に造られた平たい石の塔婆があります。秩父に産する緑泥片岩という岩を、荒川を使ってイカダで運んできたと考えられています。とても大きな財力をもった、強い武士がいたようです。現在、ニツ宮付近の小学で残っている「武久田(ぶくで)」は、元来「仏供田(ぶくで)」といい、仏様に備える米を作る田んぼの意味であったと考えられますが、この地を治め、お寺を保護した武士の存在を伝える地名の1つです。



鎌倉時代からずっとここにあるよ！

【へ】 へいわをねがう(平和を願う) 高城寺の鐘 永遠に

●高城寺の鐘…第二次世界大戦の際、金属不足が深刻化し、国は金属類回収令という、金属製品の強制譲渡命令を出し、寺院では鐘や大仏像などが回収対象となりました。そして、当時の国は、集めた金属を溶かして、武器に造り替えました。高城寺の鐘もその時、強制的に回収されました。現在の鐘は、戦後、新たに平和を願い造られたものです。(参考)山門に彫られている馬—この地で徳川家の馬が飼われていたことに由来します。

【ほ】 ぼうさいの(防災の) 基地ができるよ 西遊馬

●河川防災ステーション…大宮武蔵野高校の近くに、「西遊馬地区 河川防災ステーション」を建設中です。水災害の復旧活動を行うための基地となります。緊急用資材を備蓄すると共に、駐車場や緊急時用ヘリポートのほか、さいたま市が設置する水防センター等を配置し、迅速かつ円滑な復旧活動の拠点として整備するものです。



【ま】 まもりぬく(守り抜く) 錦乃原の サクラソウ

★土手をこえると、人があまりいないので、子どもだけで行ってはいけません！！

★必ず、大人といっしょに行きます。治水橋の北側、カルタマップに示しているあたりにあります。

●錦乃原サクラソウ…昭和8年、当時の文部省から頼まれた博士が、馬宮村に来て、サクラソウが見事に咲き乱れている様子を見て、「これは、日本一見事な場所だ！」と言いました。サクラソウは、埼玉県の秩父という山間部にある植物ですが、荒川の洪水によって流され、馬宮で咲くようになっていたのです。そこで、馬宮村の人たちは、日本で最初の新聞社となった「東京日日新聞」のえらい人である徳富蘇峰に、この場所の名前をつけてもらい、日本全国に紹介しようしました。徳富蘇峰は、サクラソウや様々な野草の花が美しく咲き乱れる様子を見て【さながら 錦を織りなしたようだ】と表現し、この場所を「錦乃原」と名付けました。永田二郎さんは、馬宮東小学校を卒業され、東京美術学校(今の国立東京藝術大学)で、黒田清輝という先生のもとで、美術を学んでいました。永田二郎さんは、のちに、馬宮村の村長にもなりましたが、永田二郎さんが描いた「さくらそう」の絵に徳富蘇峰が、【錦乃原】と書き込んで、名付けてくださったのです。永田二郎さんは、サクラソウ保存会の初代会長となり、国の天然

記念物の指定を受ける運動をおこし、昭和9年、国の天然記念物に指定され、昭和10年に、石碑が建てられました。その後、日本は、戦争に突入し、「馬宮村サクラソウ自生地」は、食料を生産する畑にするよう、命令が下され、「サクラソウ自生地」が消えてしまうことになりました。しかし、馬宮村の人たちは、自生地のサクラソウを大切に、自分の家の庭に持ち帰り、守り育てました。そして、自分の庭で、大切に守ってきたサクラソウを再び、自生地に植えもどして、現在にいたっているのです。

【み】みちばたの(道端の) 庚申塔に 想い寄せ

★あちらこちらで見られます。右の写真は、ニツ宮の阿弥陀堂の裏手・北側の道にあります。

●庚申塔(こうしんとう)…庚申塔は江戸時代にとっても流行しました。60日に1度、体内にやどる「さんし」という虫が、体から抜け出して天にのぼり、その人の「日頃の行い」を天の神様に告げ口をすると信じられていました。そこで、その日の夜は、「さんし」という虫が、天にのぼって告げ口をしないよう、みんなで夜通し宴会をして楽しく過ごすならわしができたということです。



(参考)高城寺の庚申塔—山門をくぐって左手の大きな「笠付庚申塔」は、市内で最も古いものに入り、市の文化財に指定されています。山門をくぐって右手に小さな庚申塔がありますが、施主が女性だけという非常に珍しいものです。庚申の夜、亭主や子ども、姑から解放され、夜を徹して楽しげに語り合っている女性たちの姿が目につく、ほほえましい限りです。

【む】むかしのまみや(昔の馬宮) 蚕(カイコ)を育て 繭玉(まゆだま)に

★「上サ自治会館」のところの八幡神社の壁面に見られます。

●養蚕業…昭和の始めの頃まで、馬宮の農家では桑の葉を育て、カイコに食べさせ、まゆだまから生糸をつくる養蚕業が盛んに行われていました。養蚕業は、大きな現金収入を得るための大切な副業であったようです。カイコは、その家の2階など一番良い部屋で育てました。室温を一定に保つため火を絶やさず、桑の葉を夜中も与えるなど苦労して大きく育てたといいます。上サ自治会館の前の八幡神社には、まゆの奉納額がおさめられているのが見られます。昭和7年、当時、上サ地区で養蚕業を営んでいた46軒中、特に優れたまゆの取れた23軒が、実物のまゆ玉を1軒8個ずつ出し合い、お礼の意を込めて奉納しお祝いをしたということです。



この社の西側の面に、まゆの奉納額が掛けられています。外から見られます。

(参考)さいたま新都心コクーン—「コクーン」は、英語で「まゆ」のこと。片倉工業(製糸業創業)の土地につくったことに由来する。

日本の製糸業—日本では、幕末、横浜開港による輸出増大を機に製糸業が発達。富岡製糸場が作られ、明治~大正にかけて代表的な輸出産業になった。

【め】めざすのは(目指すのは) ^{このみやおう}二宮翁 ^{このころ}その心



●二宮翁…馬宮東小学校の校歌に、【ぼくらが ともに あがめ
あう ^{このみや}二宮おう ^{このころ}の ^{かし}その心】という歌詞があります。「あが
める」とは、「尊敬する」という意味です。「二宮おう」の
「おう」とは、^{とし}年をとった ^{おとこ}男のおじい ^{さま}様 ^{たい}に対して、^{そんけい}尊敬の ^{このころ}心を
こめる呼び方です。「おう」は、「様」「先生」「氏」より、おじ
い ^{さま}様 ^{たい}に対する、^{すこ}少し ^{した}親しみを ^こ込めた、^{ちか}近い ^{かん}感じの ^{する}する ^{そんけい}尊敬の ^{このころ}心を ^{こめた}こめた ^よ呼び方 ^{かた}です。馬宮東
小学校の東門の近くにある石像は、「二宮おう」が、まだ、皆さんと ^{おな}同じ、^{すがた}子どもの ^{すがた}このころの ^{すがた}姿を
あらわ ^{あらわ}表しています。その ^{とき}時の ^{なまえ}名前は、「二宮金次郎」といっていました。

今から200年前、江戸時代の後期に二宮金次郎は、神奈川県小田原市の農家に生まれました。
金次郎が、まだ、^{おきな}幼い ^{さい}5歳 ^{とき}の時、^{いえ}家の ^{ちか}近くの ^{かわ}川の ^{ていぼう}堤防が ^{やぶ}やぶれて ^{川の水が}川の水が ^{おしよ}おしよせ、^{田んぼ}田ん
ぼや ^畑畑は、^{どろ}どろで ^{うまり}うまり、^{家は}家は ^{ぜんぶ}全部 ^{なが}流されて ^{しま}しまいました。お父さんは、^{いっしょうけんめい}一生懸命、^{田んぼ}田ん
ぼや、^畑畑を ^{もと}もとに ^{もど}戻そうと、^{ひつし}必死で ^{はたら}働き、^{びょうき}病気に ^{かか}かかって ^{金次郎が}金次郎が ¹⁴14歳 ^{とき}の時に ^な亡くなり、^{お母}お母
さんも、¹⁶16歳 ^{とき}の時に ^な亡くなって ^{しま}しまいました。金次郎は、おじさんの家に、^{あず}預けられる ^{こと}ことに
なり、^み身を ^こ粉にして、^{ひる}昼は、^{いっしょうけんめい}一生懸命に ^{はたら}働きました。そして、^{よる}夜は、^{いっしょうけんめい}一生懸命に ^{ほん}本を ^よ読み
ました。夜、本を読むために、^{つか}使う ^{あぶら}油は、^川川の ^{ていぼう}堤防に、^{アブラナ}アブラナを ^う植えて、^{なたね}なたね ^{あぶら}油を ^{つく}作り、^ああ
かりを ^{とも}灯しました。二宮金次郎は、^{おとな}大人になると ^よ世の中は、【天保(てんぼう)の大飢饉(だいき
きん)】など、^{お米}お米が ^{とれ}とれなくなり、^{多く}多くの人々が、^{飢餓(きが)}飢餓(きが)に ^{くる}苦しみますが、^{幼い}幼い ^{ころ}ころ ^{たく}たく
さんの ^{しょもつ}書物 ^よを読んで、^{みが}磨いた、^{さいかく}才覚を生かして、^{ぜんこく}全国 ⁶⁰⁰600もの ^{のうそん}農村を ^{ふっこう}復興させ、^{ひとびと}ひとびと ^{すく}すく
す。金次郎は、^{死後}死後、【二宮尊徳】と呼ばれるようになりました。二宮尊徳が、^{ぜんこく}全国の ^{のうそん}農村を ^{すく}救
った ^{かんが}「考え方」が【報徳(ほうとく)】といわれる ^い「考え方」です。これは、【すべてに、よい
ところがあり、そのよさを生かしていく】という ^{このころ}「考え方」です。校歌にある 【二宮おう ^{このころ}の
心】とは、^{このみや}二宮おうが、^{じぶん}自分が ^{子ども}子どもの ^{ころ}ころ、^{ひつし}必死で ^{まな}学んだ ^よように、「いざや学べ！いざや自分
のよさを磨け！！」と、^み現代の子 ^{げんだい}ども ^{かた}たちに ^{かた}語りかけて ^{いる}いる ^{よう}ようです。

【も】もとあらかわ(元荒川) ^{にし}西に ^{つか}付け ^か替え ^{いなただはる}伊奈忠治

●荒川の瀬替え・西遷…江戸時代のはじめ、^{あらかわ}荒川や ^{とねがわ}利根川は ^{とうきょう}東京湾に ^{注いで}注いでおり、^{かんとう}関東平野は ^{おお}大雨
が ^ふ降ると、^ななかなか ^{みず}水が ^ひ引かない ^{しつち}湿地が ^{ひろ}広がる ^あ荒れ野 ^のでした。そこで、^{とくがわ}徳川家康は、^{とねがわ}利根川の
「東遷」と ^{あらかわ}荒川の ^{せいせん}「西遷」という ^{だいどぼく}大土木工事に ^{ちゅうしゅ}着手しました。この ^{ちすい}治水事業により、^{こうだい}広大な ^{しつち}湿地
は、^{めぐみ}恵の ^{だい}大地に ^う生まれ ^{かわ}変わった ^ののです。家康の ^い命令を受け、^か河川改修の ^か陣頭指揮をとったの
が、^{いな}伊奈忠次で、^{さいしよ}最初に ^{きよてん}拠点を ^お置いた ^{いな}伊奈町には、^{いな}伊奈氏屋敷跡があり、^{ちようめい}町名の ^{ゆらい}由来にも ^ななっ
ています。そして、^{いな}忠次の子 ^{いな}どもの ^{いな}伊奈忠治は、^{もとあらかわ}元荒川の本 ^{ほん}流を ^{くまがや}熊谷の ^{くまがや}久下(くげ)で ^し締め切り、
^{いる}入間川の ^{しりゅう}支流につなぎ、^{いる}入間川本 ^{ほん}流へ ^{せが}とつなげる ^{あらかわ}「荒川の瀬替え」を ^{おこな}行いました。

(参考)荒川の流れ—荒川の源流点(出発点)は、^あ甲州(山梨県) ^{ぶしゅう}武州(埼玉県) ^{しんしゅう}信州(長野県)の
^{けんが}県境に ^い位置する ^あ甲武信ヶ岳 ^なにあります。荒川は、^あ甲武信ヶ岳 ^なから ^な流れ出て、
^{ちちぶ}秩父、^{よりい}寄居、^{くまがや}熊谷、^{とうきょう}馬宮、^な東京を ^な流れ、^{たいへいよう}太平洋に ^で出ます。一方、^{いっぼう}日本一 ^{なが}長い
「^し信濃川(長野県内では千曲川と呼ばれる)」の ^{げんりゅう}源流点も ^あ甲武信ヶ岳 ^なに ^ああり
ます。信濃川は、^あ甲武信ヶ岳 ^なから ^な流れ出て、^{なが}長野、^{にいがた}新潟を ^な流れ、^{にほんかい}日本海に ^で出
ます。1つの山から、^{たいへいよう}太平洋側 ^にと ^{ほんかい}日本海側 ^にに分かれる川をもつ山を ^{ぶん}分水嶺(ぶん
すいれい) ^いといいます。

【や】 やっぱりおいしい 馬宮のお米は 日本一

●馬宮米…馬宮には、たくさんの田んぼが広がっています。馬宮東小学校の給食にも「馬宮米」が使われています。もちもちでやわらかく、とてもおいしいですね。「米」という字をよく見ると「八、十、八」から成り立っています。漢字の成り立ちから分かるように、お米づくりは「八十八」(88)の工程があると言われて、大変な手間がかかるお仕事です。農家のお方が大切に育てて収穫して下さった「馬宮米」を感謝しておいしくいただきます。

【ゆ】 ゆめをもち(夢をもち) 学び鍛えよ 我が母校

●馬宮東小学校…令和5年度に創立150周年を迎えます。馬宮の歴史の中に、馬宮東小学校がありますが、これからの日本の歴史・世界の歴史をつくるのは、みなさんです。これからの長い人生、失敗はつきものです。人によっては何回も失敗するかもしれない。でも、大切なことは、そこから立ち上がることです。そして、失敗から学べればもっと素晴らしい。故郷馬宮は、何度も荒川の洪水に苦しめられました。そうした先人の“あきらめない心”“あきらめない勇気”を心に刻みましょう。アメリカのウォルトディズニーは、会社をクビになって、そして、創業したけど倒産した。倒産を繰り返して、やがて、その経験を糧に大成功を収めました。どうか、チャレンジして、そして、失敗しても立ち上がってください。そして、みなさんの溢れる若い力で、よりよい世界を、よりよい未来を創ってください。

【よ】 よこていは(横堤は) 荒川独自の 治水対策

★土手をこえると、人があまりいないので、子どもだけで行ってはいけません!!!

★必ず、大人といっしょに行きます。右の写真は、西遊馬公園の南側です。

●横堤…荒川の流れに対し、垂直に交わるように、横にのびる堤防を、「横堤(よこてい)」といいます。横堤は、何のためにつくられたのでしょうか？それは、川の流れを遅くすることで、「堤防が壊れないように」しているのです。これは、荒川だけに見られる独自の治水対策です。



【ら】 らんりゅうで(乱流で) 自然堤防 できあがる

●自然堤防…馬宮には、旧入間川の乱流でつくられた2つの筋の自然堤防があります。1つは、西遊馬～二ツ宮のラインで、もう1つが、土屋～佐知川のラインです。水田面より約2m高くなっています。上サは、西側にある自然堤防の北端にあたり、鎌倉・室町時代から集落が営まれていたようです。

(参考)上サ集落—上サ集落の周囲は、南北250m、東西350mの濠が約3mの幅でめぐり、水害を防ぎ、典型的な「環濠集落」であると言われます。鎌倉時代の「発心集」に「武蔵入間川のほとりに大なる堤を築き、水を防ぎて其内に田畑在家多く群り居たる処あり」とあり、上サ地区とは特定できませんが、上サの地名の由来は、自然堤防上のため、他よりも「カサが高い」「かさ上げ」から来ていると考えられています。

【り】りゅうにゆうする(流入する) 川の水を貯め 調整池

★川や、池などは、ぜったいに子どもだけで出かけてはいけません！！

ぜったいに近づいてはいけません！

●荒川調整池…荒川の洪水を防ぐため、現在、戸田付近に「彩湖」と呼ばれる「荒川第一調整池」があり、洪水時に3900万m³もの洪水調節が可能です。そして、今後、馬宮付近に、荒川第二・第三調整池が整備される予定で、全体事業費1670億円、治水容量は5100万m³にも及びます。

【る】るんるんの(ルンルンの) みんなの笑顔 夏祭り

●夏祭り…夏には、各地区の子ども会が夏祭りを催します。新型コロナウイルスが流行し、開催が難しくなりました。祭りを盛り上げる「お囃子」は、飯田新田だけが「阿弥陀寺流」で、他はすべて「木ノ下流」です。郷土芸能のお囃子は、近年、後継者がなかなか集まらないのが悩みです。

【れ】れきしあり(歴史あり) 永田邸の 長屋門

●永田邸長屋門…馬宮コミュニティセンター近くに、永田邸があります。錦乃原サクラソウのサクラソウ保存会の初代会長となり、国の天然記念物の指定を受ける運動をおこした永田二郎さんのお宅になります。このお宅の長屋門は、市指定の有形文化財になっています。伊奈忠治が、元荒川の本流を熊谷の久下(くげ)で締め切り、入間川の支流につなぎ、入間川本流へとつなげる「荒川の瀬替え」を行った際、この荒川の「西遷」のために、土屋に陣屋を設け、大土木工事の指揮をとりました。その後、土屋陣屋は、家臣の永田氏が拝領し、現在に至っています。



NHK大河ドラマ「青天を衝け！」の映像にも使用されました。

【ろ】ろじにえがお(路地に笑顔) あいさつ交わし みんな仲良し

●路地…故郷馬宮には、たくさんの自然、たくさんの田んぼが広がり、そして、家々が集まり、路地で結ばれています。この大切な故郷の路地では、人々があいさつを交わし、明るい笑顔が輝いています。助け合い、みんなが仲良しのこの故郷を、大人も子どももみんなですべてで築き上げていきましょう。

【わ】わたしぶね(渡し舟) 千手堂へ 川(かわ)越えて

★川や、池などは、ぜったいに子どもだけで出かけてはいけません！！

ぜったいに近づいてはいけません！

●千手堂の渡し…現在の荒川と入間川が合流する地点付近に、千手堂の渡しがあったと考えられます。千手堂の渡しを渡ると川越の古谷本郷の氷川神社の前に出ます。渡し場の名の由来は、神社の横に千手堂という観音堂があったので名付けられたようです。境内には千手堂公民館が建っており、千手堂の名を現在に伝えています。

この渡しは大宮宿と川越の城下を結ぶ川越道にある大事な役割をもち、夜でも灯かりをつけて緊急書状の受け渡しや、護送役人の川渡しを行っていたという古い記録が残っています。